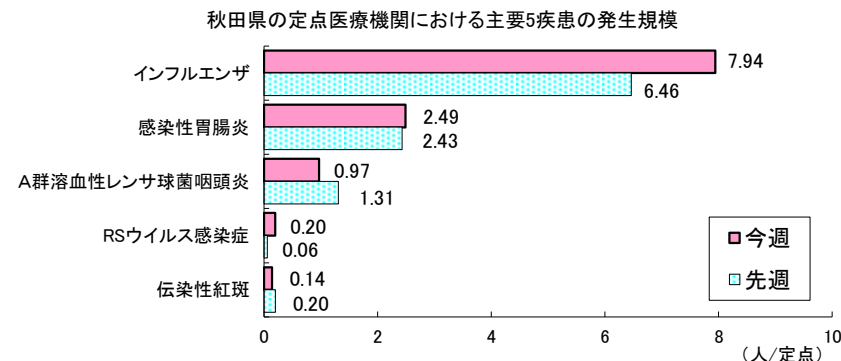




【第14週の発生動向】

< 定点把握対象疾患(週報)・前週比 >

1. インフルエンザは、県全体で1.2倍に増加しています。保健所別では、秋田市、北秋田、能代、秋田中央、由利本荘、大仙、湯沢で増加、大館、横手で減少しています。
2. 感染性胃腸炎は、県全体で同規模です。保健所別では、秋田市、大館、由利本荘、大仙、横手で増加、北秋田、能代、秋田中央、湯沢で減少しています。
3. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で26%減少しています。保健所別では、秋田中央、横手、湯沢で増加、秋田市、大館、由利本荘、大仙で減少しています。



発生報告

< 五類定点対象疾患(週報) >

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢				
	第13週	第14週	増減	第13週	第14週	増減	第13週	第14週	増減	第13週	第14週	増減	第13週	第14週	増減	第13週	第14週	増減	第13週	第14週	増減	第13週	第14週	増減	第13週	第14週	増減					
RSウイルス感染症	0.06	0.20	↗																0.50	0.75	↗			1.33	↗							
インフルエンザ	6.46	7.94	↗	5.36	7.45	↗	9.57	6.71	↘	2.67	3.33	↗	8.50	17.75	↗	5.83	6.50	↗	8.67	10.17	↗	5.29	8.00	↗	6.40	5.40	↘	5.00	7.20	↗		
咽頭結膜熱	0.14	0.09	↘	0.43	0.29	↘	0.25		↘																		0.25	0.25				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.31	0.97	↘	2.71	0.71	↘	1.00		↘							1.25	3.25	↗	1.75	1.00	↘	1.75	0.75	↘		0.33	↗	1.00	2.00	↗		
感染性胃腸炎	2.43	2.49	↗	2.29	2.57	↗	1.50	3.00	↗	5.50	4.00	↘	3.00	1.67	↘	4.00	2.50	↘		1.75	↗	0.75	1.00	↗	1.33	2.00	↗	5.00	4.25	↘		
水痘	0.11	0.06	↘		0.14	↗										0.75	0.25	↘						0.33		↘						
手足口病																																
伝染性紅斑	0.20	0.14	↘	0.29	0.29		1.25	0.75	↘																							
突発性発しん	0.26	0.14	↘	0.29	0.29		0.50	0.25	↘	0.50	1.00	↗	0.33		↘				0.75		↘											
ヘルパンギーナ																																
流行性耳下腺炎																																
川崎病																																
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*										*	*				
流行性角結膜炎	0.29		↘	0.67		↘				*	*		*	*		*	*									*	*					
細菌性髄膜炎																*	*															
無菌性髄膜炎																*	*															
マイコプラズマ肺炎	0.38	0.25	↘	2.00		↘				1.00	2.00	↗				*	*															
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*															
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)																*	*															

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。

「*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

・二類感染症の結核が秋田市保健所管内から1人、由利本荘保健所管内から1人、湯沢保健所管内から1人、報告されました。
 ・五類感染症の侵襲性肺炎球菌感染症が由利本荘保健所管内から1人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	(人)		
		1週-13週 全国	14週 秋田	14週 秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	4797	23	3
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
三類	コレラ			
	細菌性赤痢	27		
	腸管出血性大腸菌感染症	256		
四類	E型肝炎	112		
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	114	7	
	エキノкокクス症	2		
	黄熱			
	オウム病	8		
	オムスク出血熱			
	回帰熱			
	キャサヌル森林病			
	Q熱			
	狂犬病			
	コクシジオイデス症	1		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症			
重症熱性血小板減少症候群	6			
腎症候性出血熱				
西部ウマ脳炎				
ダニ媒介脳炎				
炭疽				

類型	疾患名	(人)		
		1週-13週 全国	14週 秋田	14週 秋田
四類	チクングニア熱	2		
	つつが虫病	41		
	デング熱	71		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	7		
	日本脳炎			
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症	1		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ボツリヌス症	1		
	マラリア	9		
	野兔病			
	ライム病			
	リッサウイルス感染症			
リフトバレー熱				
類鼻疽				
レジオネラ症	327	3		
レプトスピラ症	1			
ロッキー山紅斑熱				
五類	アメーバ赤痢	208	4	
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	82		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	458	3	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	13		
	急性脳炎	319	3	
	クリプトスポリジウム症	4		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	36		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	236	1	
	後天性免疫不全症候群	280		
	ジアルジア症	9		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	163	1	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	15		
	侵襲性肺炎球菌感染症	933	5	1
	水痘(入院例に限る)	98	1	
	先天性風しん症候群	1		
	梅毒	1498	5	
	播種性クリプトコックス症	37		
	破傷風	12		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	22		
百日咳	3987	38		
風しん	1112	2		
麻しん	378			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	10			

トピック

<全国的に風しんが流行中です>

昨年8月以降、30~50代の男性を中心に風しんの報告数が増加しています。2019年も第13週時点ですでに1,000人を超え、例年を大きく上回る状況となっています(表1)。2012~2013年にかけての前の大流行時には、進学等により地域を越えた人の移動が活発となった春以降に流行の拡大がみられました(図)。今回の流行においても、今後さらに拡大していく可能性がありますので、注意が必要です。

【風しんとは】

風しんは、発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とするウイルス性発疹症です。しかし、患者の約半数はこれらの症状が揃わない非典型例であり、感染していても明らかな症状を呈さない不顕性感染例もあるため(15~30%)、患者本人も知らないうちに周囲へ感染を拡げる危険性があります。免疫を持たない妊娠初期(妊娠20週頃まで)の女性が感染すると、胎内感染により赤ちゃんが**先天性風しん症候群(CRS)**となる場合があります。CRSは、**難聴、心疾患、白内障**などの障がいをもって出生する疾患で、出生後の発育に遅れが見られることもあります。

【予防】

患者の唾液にはウイルスが含まれており、咳のしぶき等により周囲へ感染が拡がります。発疹の出る1週間前から発疹が出た後1週間位まで(約2週間)は感染力があるため、発症前や回復直後でも周囲に感染を拡げる可能性があります。感染防止には予防接種による抗体獲得が有効です。抗体の有無を調べる抗体検査については助成制度がありますので、対象の方は御検討ください(表2)。

表1 過去10年間の風しん報告数

年	報告数(人)	
	秋田	全国
2010年	1	87
2011年	1	378
2012年	3	2386
2013年	4	14344
2014年	7	319
2015年	0	163
2016年	0	126
2017年	0	93
2018年	5	2937
2019年(13週現在)	2	1112

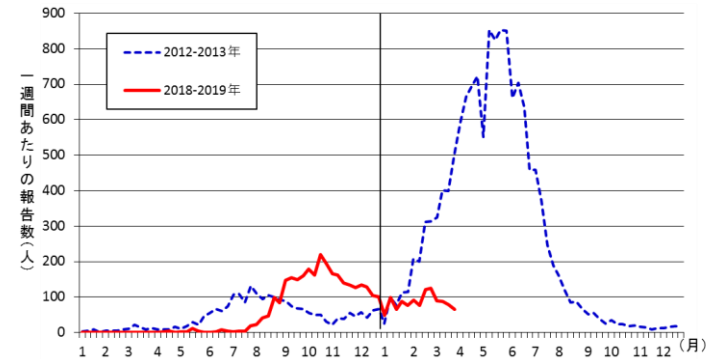


図 全国における風しん報告数の推移

表2 風しん抗体検査助成対象者と実施主体

抗体検査助成対象者	実施主体(問い合わせ先)
妊娠を希望する女性とその配偶者	県(保健・疾病対策課018-860-1427)
S.37.4.2~S.54.4.1生まれの男性	秋田市(秋田市保健所018-883-1179)
	市町村(各市町村担当窓口)



2018年/2019年シーズン (2018年第36週: 9月3日~)
インフルエンザ情報

定点あたり患者数の推移(インフルエンザサーベイランス)

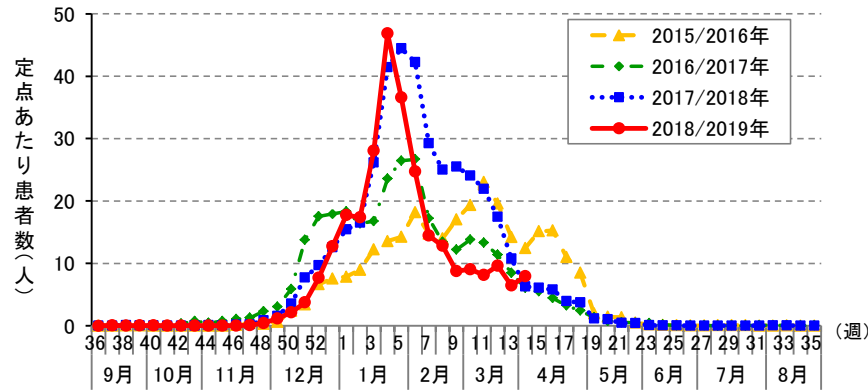


図 秋田県におけるインフルエンザ患者の発生状況

社会福祉施設等におけるインフルエンザ集団発生状況

インフルエンザによる集団発生が6報告されました。

No	所在地	施設名	報告日	有症者数		
				利用者(園児、入所者等)	職員	計
154	三種町	鵜川保育園	4/1	67名のうち 18名	17名のうち 3名	21名
155	横手市	平鹿総合病院 7階はな病棟	4/2	53名のうち 7名	57名のうち 3名	10名
156	羽後町	もとにしこども園	4/2	57名のうち 10名	11名のうち 0名	10名
157	湯上市	昭寿苑	4/4	85名のうち 3名	66名のうち 7名	10名
158	三種町	金岡保育園	4/4	41名のうち 10名	12名のうち 0名	10名
159	大仙市	日の出ベビー保育園	4/4	46名のうち 25名	19名のうち 4名	29名

インフルエンザ入院サーベイランス

表: 2018/2019シーズン
秋田県におけるインフルエンザによる入院患者報告数

患者数 (人)			
秋田県		全国	
4/1~4/7 (14週)	累計	3/25~3/31 (13週)	累計
24	329	204	19,788

○入院サーベイランスの報告数は、秋田県内8か所、全国約500か所の基幹定点医療機関からの報告です。全国の報告数は公表前のため、1週間遅れの数値になります。

【インフルエンザの集団発生状況】

○今シーズン(4月7日時点)の報告数

159施設: 社会福祉施設44、保育所・幼稚園100、病院15

<参考>

○昨シーズンの年間報告数

170施設: 社会福祉施設44、保育所・幼稚園119、病院7

※原則、10人以上または利用者の半数以上の発生報告です。



感染性胃腸炎情報

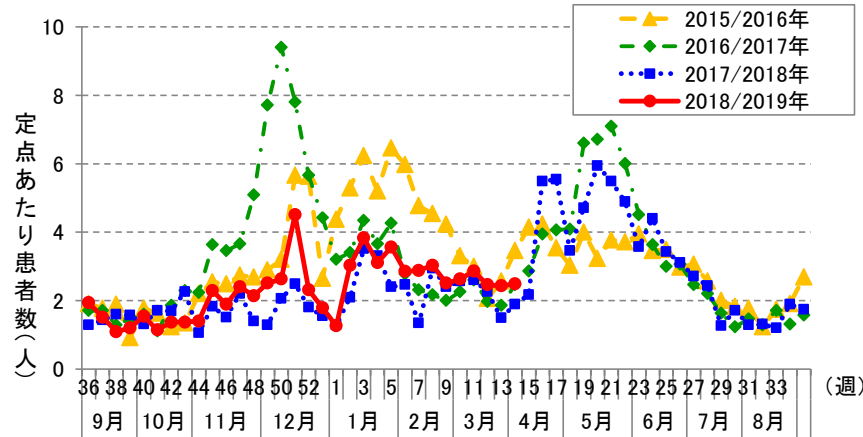


図: 秋田県における感染性胃腸炎の発生状況

社会福祉施設等における感染性胃腸炎の集団発生について

感染性胃腸炎の集団発生報告はありませんでした。

【感染性胃腸炎の集団発生状況】

- 平成30年度(3月31日時点)の報告数
65施設 有症者903名: 社会福祉施設7、保育所・幼稚園57、病院1
- 平成29年度の年間報告数
42施設 有症者637名: 社会福祉施設8、保育所・幼稚園34

※原則、10人以上または利用者の半数以上の発生報告です。

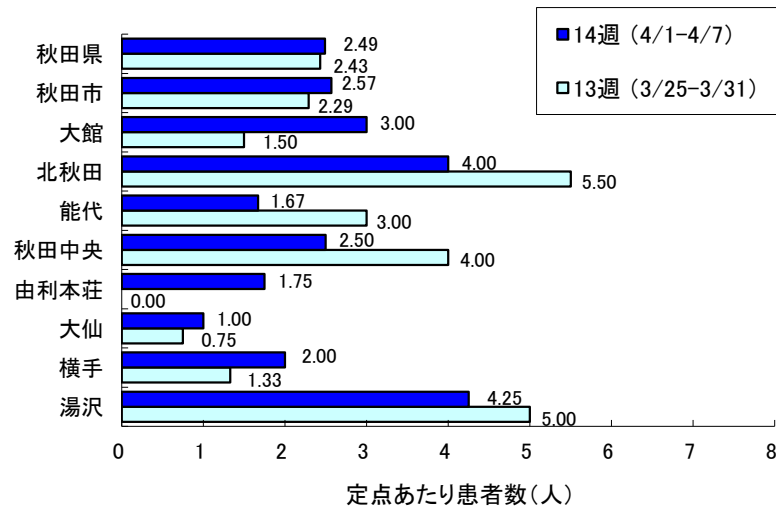


図: 秋田県各保健所における感染性胃腸炎の発生状況



【注意報・警報の発生状況】

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
インフルエンザ	能代(17.75)、由利本荘(10.17)	-

■ 注意報・警報の定義

【注意報・警報の定義】

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		